

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101436		
法人名	特定非営利活動法人 さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	平成26年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101436-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 んふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成26年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・食事は全て手作りで提供します。季節の物を取り入れ利用者の希望に沿った献立を考慮しています。・医療依存度の高い利用者でも病院の付き添いや送迎介助の手伝いを行い、希望があれば安心して看取りを行う環境が整っています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、開設以来「出会い・ふれあい・学びあい」を合言葉として実践をしている。開設当からの利用者も多く、利用者とは家族のような信頼関係ができています。また、繁華街に立地しているため、生活の利便と豊かさ実感できる。健康面では、24時間の医療連携と往診体制が整っている。そして、職員の心のこもった手作りの食事を味わいながら、人生の最終章を、悔いなく過ごしている。利用者のほぼ全員が、ホームで最期を迎えており、まさに理想の「家」である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング等で話し合い、地域との関係の継続を図っています。行事に参加した時はホームの一員として自覚を持ち恥じない行動を心懸けています。	理念は、開設以来、変わることなく、リビングの見やすい位置に掲げている。職員は、常に理念の基本に立ち返り、利用者が、住み慣れた地域の中で、自分らしく暮らせるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	資源ごみ当番を3ヶ月に一回協力させて頂いています。防災訓練ではお店の方にも協力して頂きました。	自治会に加入し、回覧版を通じて、地域の行事を知ることができる。町内のゴミ出しや行事など、積極的に参加をしている。近所の店で買い物をして、顔なじみのつきあいができている。	地域への参加は、日常的に行われている。さらに、ホームの行事等に地域の人に声かけし、交流の輪が広がるように期待をしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話等の問い合わせではパンフレット郵送や持参して対応しています。施設の見学の方もいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の参加もあり、イベントへの参加の呼びかけがあり参加させていただくこともあります。	運営協議会は、隔月に開催をしている。入居者状況や活動報告、行事予定、また、運営上の課題等を話し合い、その結果を検討し、改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加、利用者状況報告、個々の案件について相談させていただいています。	市とは、運営上の問題など、気軽に相談できる良好な関係を継続している。また、市主催の会議や行事などの情報を得て参加をしている。事故などは、速やかに報告をし、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で確認しあいます。人員を増やして対応することもありました。	管理者と職員は、身体拘束の弊害を正しく理解し、声かけと見守りを徹底することで、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で話し合い防止に努めています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見人2名、自立支援事業3名それぞれ利用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面談の中で本人の希望を聞きだし不安点が無いように対応しています。リスクの説明もします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や個別に要望を聞いています。提案箱を設置してしています。	利用者からは、居室で要望を聴いたり、家族の訪問時には、気軽に声をかけている。また、ホーム便りに意向や要望を書いてもらう用紙を同封している。それらを、運営やサービスの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見交換をして、代表とは年2回話し合う機会を設けています。	管理者は、日常的に職員と会話をする中から、要望や意見等を把握している。利用者への、よりよい対応の仕方や介助者の身体的な負担の軽減などを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望を聞く機会を設けて個々に対応しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人のスキルアップのため研修や資格を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会のメンバーと情報交換して分からない点等教えてもらいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の面談、情報収集に努め本人のニーズに合った支援が出来るように取り組んでいます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談にて要望等理解してホームとしてどのように対応していくか検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来ることはすぐに対応して、困難事例については関係機関と相談して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が今まで培ってきたことから学ぶこともあり、あ互い支え合う関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や手紙を使用して出来るだけホームに来ていただけるように働きかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から利用している美容院、歯医者等を継続して支援をしています。	馴染みのある商店街への外出や買い物で、顔なじみの人に出会っている。行きつけの、美容院や歯科医の利用も継続をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自立度の高い利用者が他の利用者に出るることの手伝いをして下さります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前利用者の家族の方がホームを訪れてくれるケースもあります。相談があれば必要に応じて対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	部屋にいるときや入浴時に自分の思いを吐露されることが多いのでその時に本人の意向を聞いています。	入居期間が長い利用者と在職期間の長い職員が多く、家族のような、信頼関係の中で、思いを把握している。また、利用者のさりげない言動や表情からも汲み取っている。職員は一人ひとりの思いに寄り添い、その人らしい暮らしを支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、日常の利用者の会話でニーズの把握に努めます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	声かけを多くしてコミュニケーションを取り様子を見守ります。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、スタッフが家族の意見を参考にし話し合います。往診時の医師の助言、訪問看護での看護師の助言を参考にします。	本人や家族の意向と主治医の助言を、計画に反映させている。また、職員の意見や業務日誌などから、本人の様子を把握している。健康を維持し、自立した生活ができるように、介護計画を作成している。状況に応じた見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の感じたことを個人記録に記入しています。申し送り時、ミーティング時に話し合います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望を取り入れるように配慮しています。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺を散歩しながら地域とのあいさつを交わし交流を心懸けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望により入所前のかかりつけ医を利用する方もみえます。嘱託医とは24時間対応です。	かかりつけ医の継続は、本人や家族の意向を尊重している。協力医による24時間の支援体制があり、月に2回の往診がある。他科受診の場合は、家族または職員が受診同行を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護を受け緊急時の対応について指導していただき、確認をします。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	嘱託医を通じて情報提供したり、入院中のお見舞い時に状況を把握します。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本方針を説明して、最終的には医療機関と家族、ホームで方針を共有します。	契約時に「看取りについての基本方針」について、同意書がある。状態の変化に応じ、本人や家族の意向を確認している。終末期には、協力医と連携を図り、職員も積極的な姿勢で看取りの支援体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてミーティング時に話し合いをして、マニュアルの確認を行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行います。防災グッズの定期的な入れ替え、利用者、スタッフとのシュミレーションを行います。前回の防災訓練では消防署の方も参加して頂きました。	災害訓練は、消防署立ち会いで行い、近隣の人たちも参加をしている。夜間を想定した避難誘導や避難経路を確認している。玄関口に人数に見合った防護用具を備え、必要な物品も確保している。	今後とも、ハザードマップに沿った水害対応や繁華街という地域性に鑑み、類焼や不審火などの想定訓練にも期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訴え等あれば別室で伺う等配慮しています。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけない声かけを行っている。共有空間の場所で、利用者同士が不快な会話をしないように配慮をしたり、入浴や排泄時には、羞恥心を損なわないように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	対話を大切に傾聴しています。話しやすい雰囲気づくりに気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースに合わせた時間配分を行い、1日の生活を大切に過ごしてもらえるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用したい衣服を自分で選ばれる方もいますし、スタッフが用意したものを着直す方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもののリクエストには出来るだけ対応しています。季節感にも気配りして作っています。	食事は、職員の手作りで提供をしている。馴染みの八百屋で食材を仕入れ、利用者は、できることを手伝っている。職員も同じものを利用者と一緒に食べ、会話も弾んでいる。食事づくりでは、旬の食材を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には10時15時に水分補給を行い、個別に対応もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨き、義歯の手入れ等を行います。		

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早めの誘導みて日中だけでも失禁が減るよう自立に向けた支援を行っています。	個々の排泄リズムに応じて、トイレへ誘導している。その結果、失禁を減らし、おむつの量も減り、自立につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩を取り入れスタッフ同士が確認表を見て対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を基本に体調によって柔軟に変更、また2人介助で対応もしています。	入浴は、身体状況によっては介助者2人で対応をし、安全で安心につながる支援をしている。また、拒否の人には、さりげない声かけを工夫している。入浴中は、会話を楽しむ場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力が低下している人には入浴を考慮したり午後から希望者には休んでもらうように勧めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりにファイルを作成して管理しています。服薬時に飲み忘れがないか確認します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前出来ていた事に挑戦される方、それを見て自分もやってみると挑戦される方もいます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩や季節ごとの花見、地域のイベントに参加しています。祭り等の見学もします。	毎日の散歩で、近くの神社や繁華街へ出かけている。車イス利用者も誘い出し、職員は2~3回往復している。また、季節ごとの行事や花見など、家族の協力を得ながらの外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム柳ヶ瀬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時は自分で買い物をさせていただきます。留守番をしている方にお土産を購入する方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へのあいさつを書いてもらったり、電話をかけてもらう等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を用意します。自分の作品を飾り付けします。	玄関を入ると、すぐリビングに続いている。その一角にある長椅子が、くつろげる場になっている。利用者の習字や外出時の写真、季節の花も飾っている。また、窓からは、生活道路が見え、生活感のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋にいたい時と談話室にいたい時と本人の希望を優先させています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から大切にしているものや自分で作った作品を飾り付けしています。	居室には、趣味の作品を飾っている。馴染みの家具類や装飾品を利用者の好みに配置をし、居心地のよい部屋づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺や床材など必要に応じて相談して対応しています。		